

## Q. 明治43年の洪水の水位を基準にした計画高水位で堤防整備を行うのは過大な整備になるのでしょうか。

明治43年の多摩川の洪水は記録がある中で最大規模の洪水であり、このときの水位記録をもとに計画高水位が定められ、現在の多摩川河川整備計画にも踏襲されています。また、多摩川に架かる橋梁や排水樋管などは、この計画高水位を基準に一貫して施設の構造を決定し、整備を行ってきています。治水整備や河川管理の基本となる計画高水位を短期的な河道の変化や一部の施設整備のために見直すことは適切ではありません。なお、今回整備する堤防は、本来必要な堤防高よりも低い暫定堤防であり、対岸の川崎市側や二子玉川南地区の上下流の堤防よりも低く、残念ながら洪水時の危険性は残ります。決して過大な整備ではありません。

